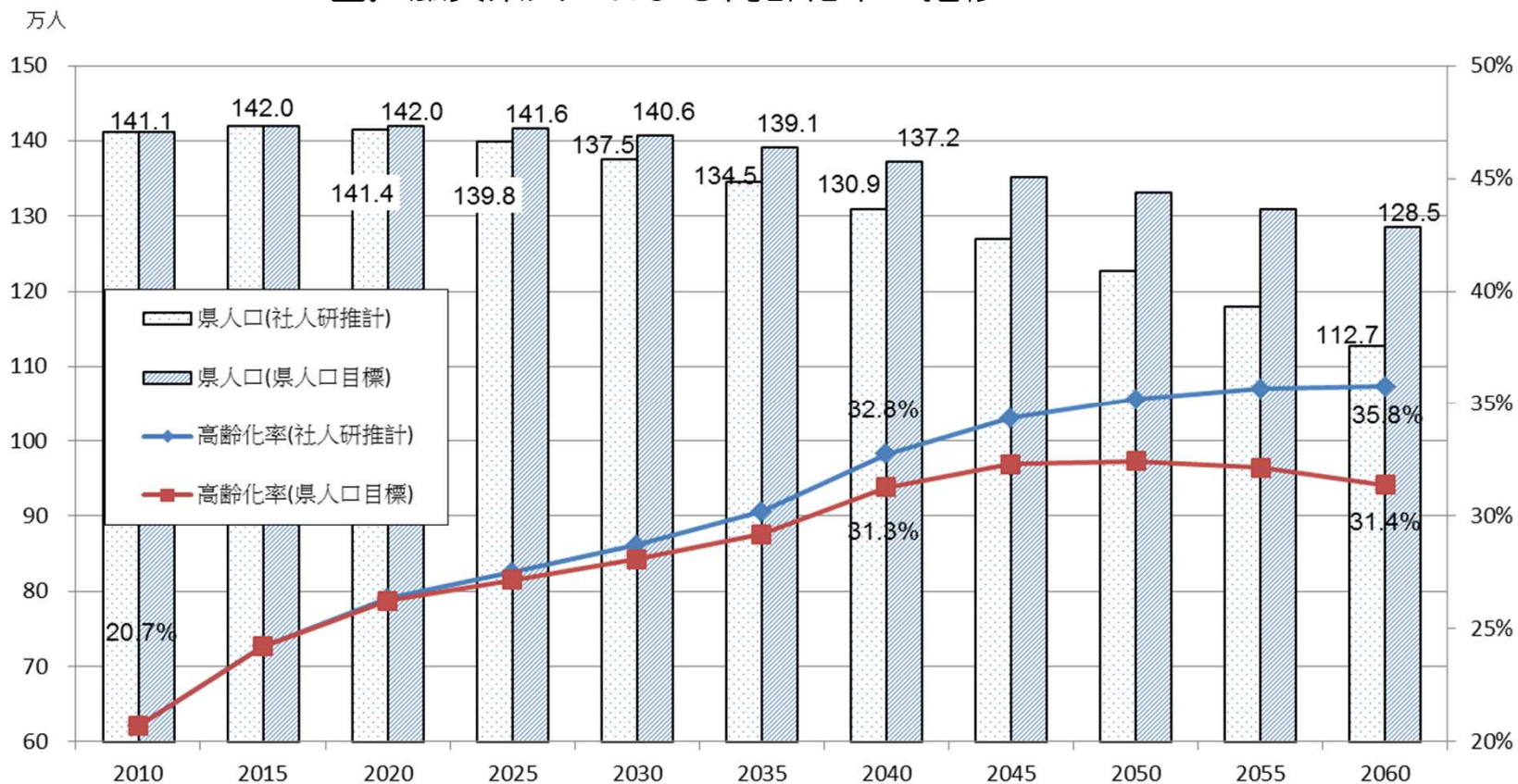


①人口減少および少子高齢化

- ・県人口は今後、徐々に減少。少子高齢化が進むと推測されている。
- ・都市部(南部地域)と中山間地域(湖北・高島地域等)で人口動向は二分化する傾向が見られる。
- ・人口減少・少子高齢化の進展によって、地域コミュニティの弱体化、経済活力の低下、労働力不足、社会資本の維持や県土の保全などへの影響が懸念。

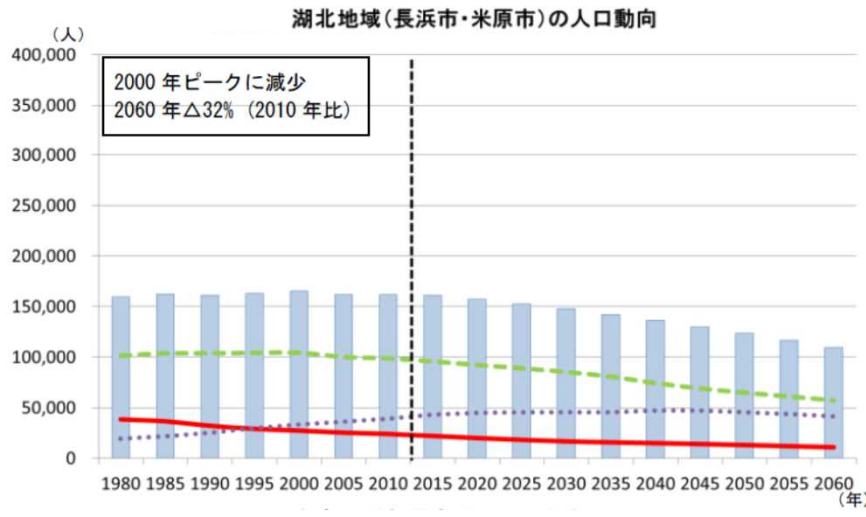
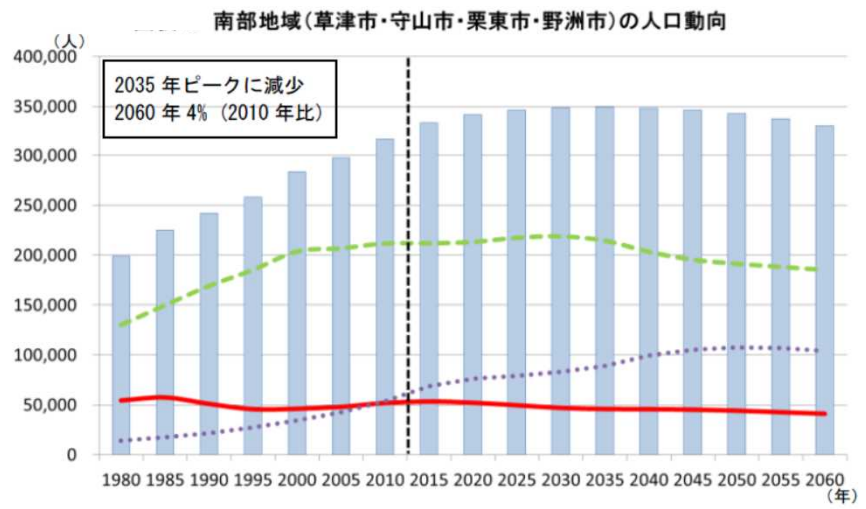
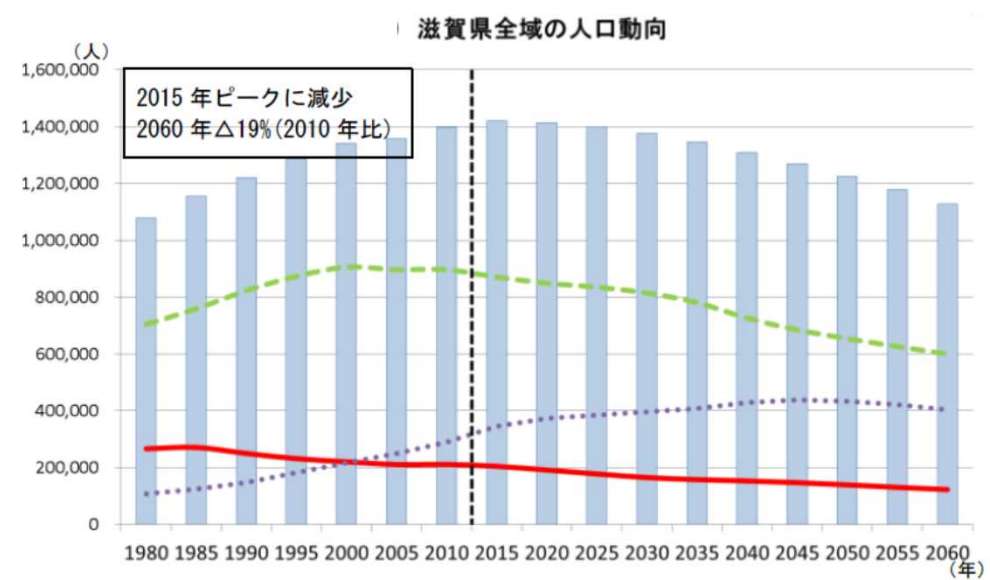
図. 滋賀県人口および高齢化率の推移



(資料:滋賀県「人口減少を見据えた豊かな滋賀づくり総合戦略」(成27年10月)

・都市部(南部地域)と中山間地域(湖北・高島地域等)で人口動向は二分化する傾向が見られる。

図. 滋賀県全域および地域別の人口動向

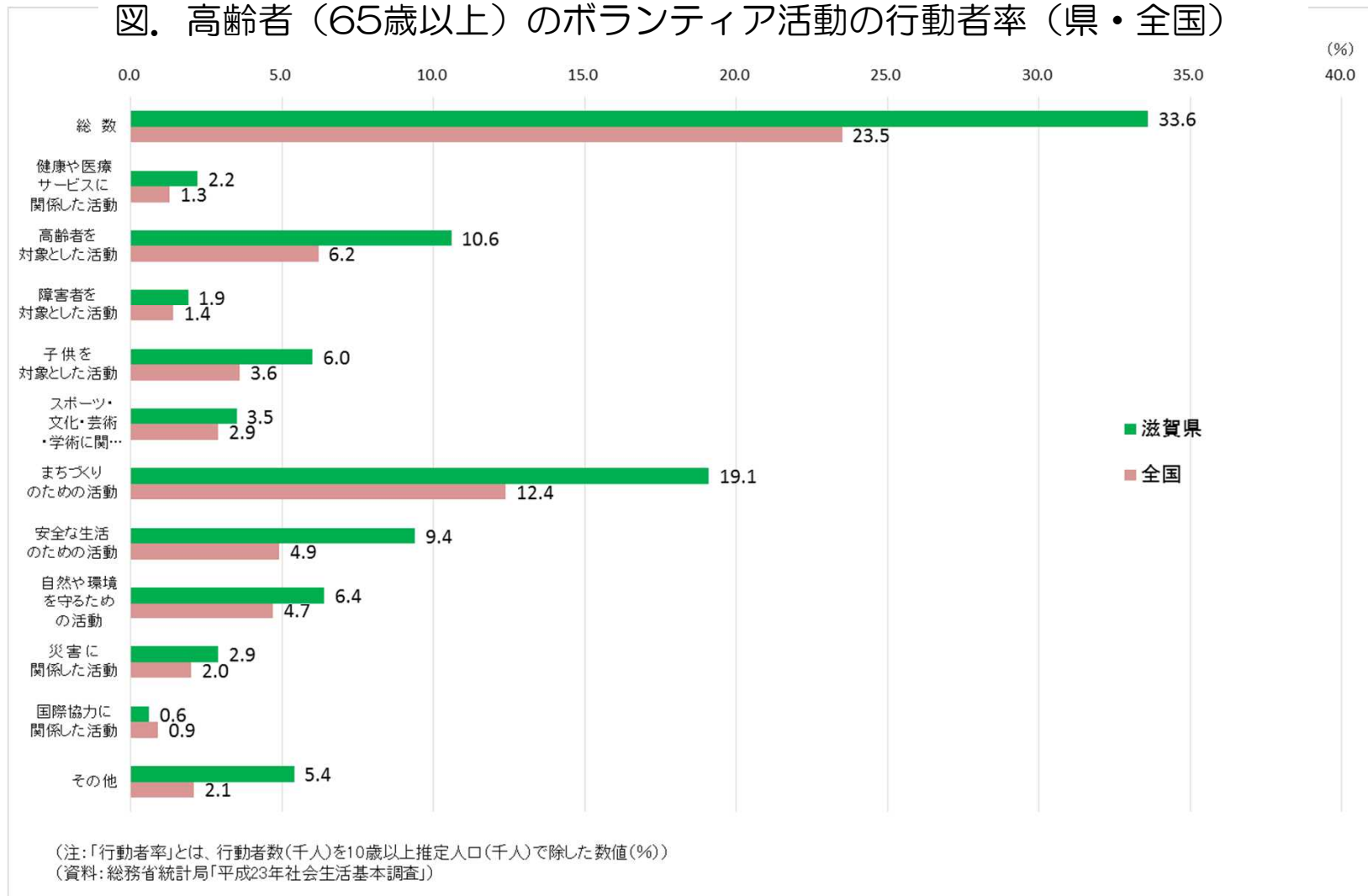


②県民のボランティア活動の行動者率

(県・全国)

- ・滋賀県民のボランティア活動への参加率は、全国状況よりも高く、高齢者のボランティア活動への参加率は高い。

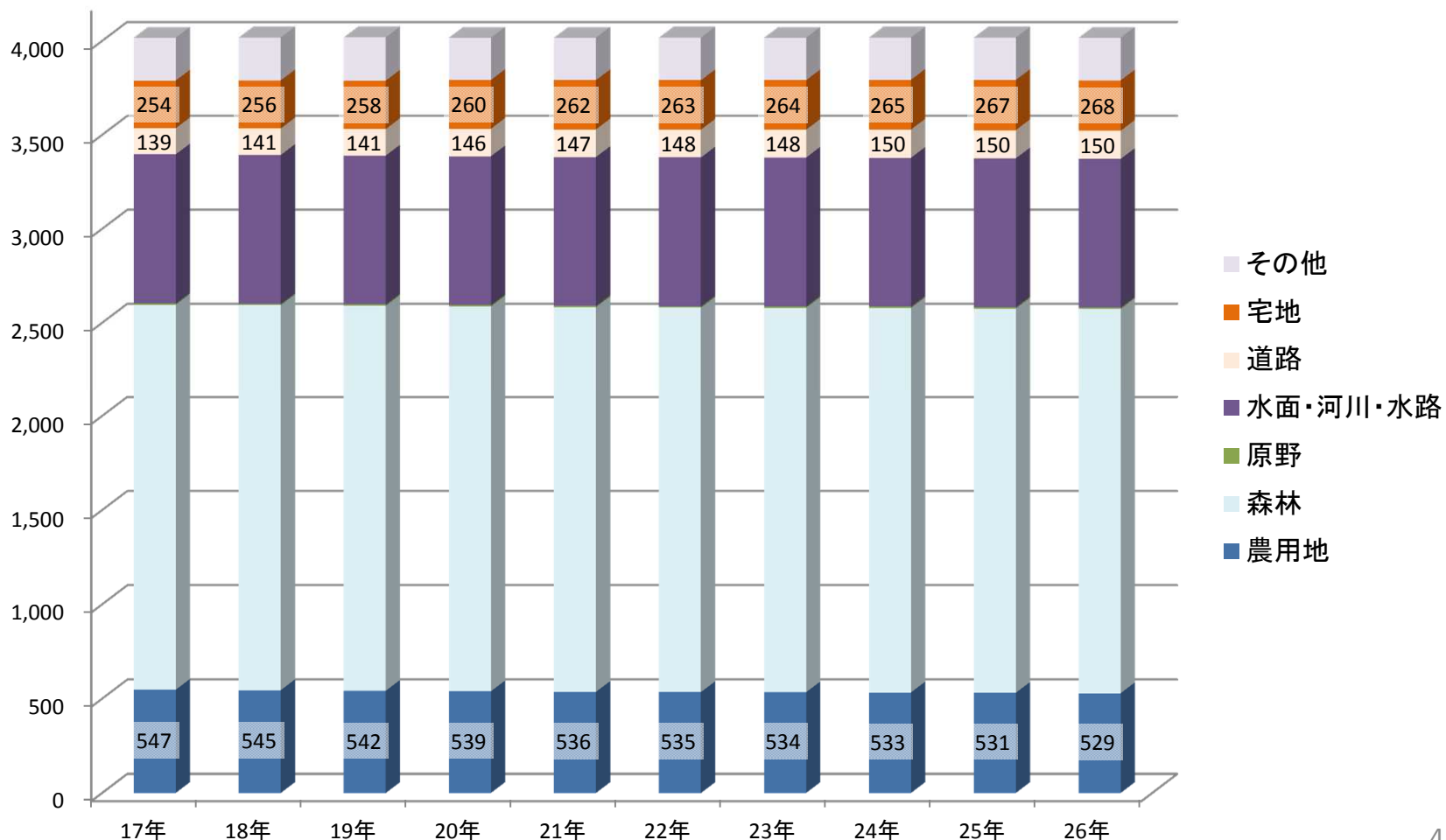
図. 高齢者（65歳以上）のボランティア活動の行動者率（県・全国）



③滋賀県の土地利用の変化

・土地利用の状況は、平成17年から平成26年の間における土地利用の推移をみると、農用地は他への転用により18km²減少している。一方、宅地および道路は都市化の進展に伴い、宅地が14km²、道路が11km²の増加となっている。

図. 県土の利用形態別推移

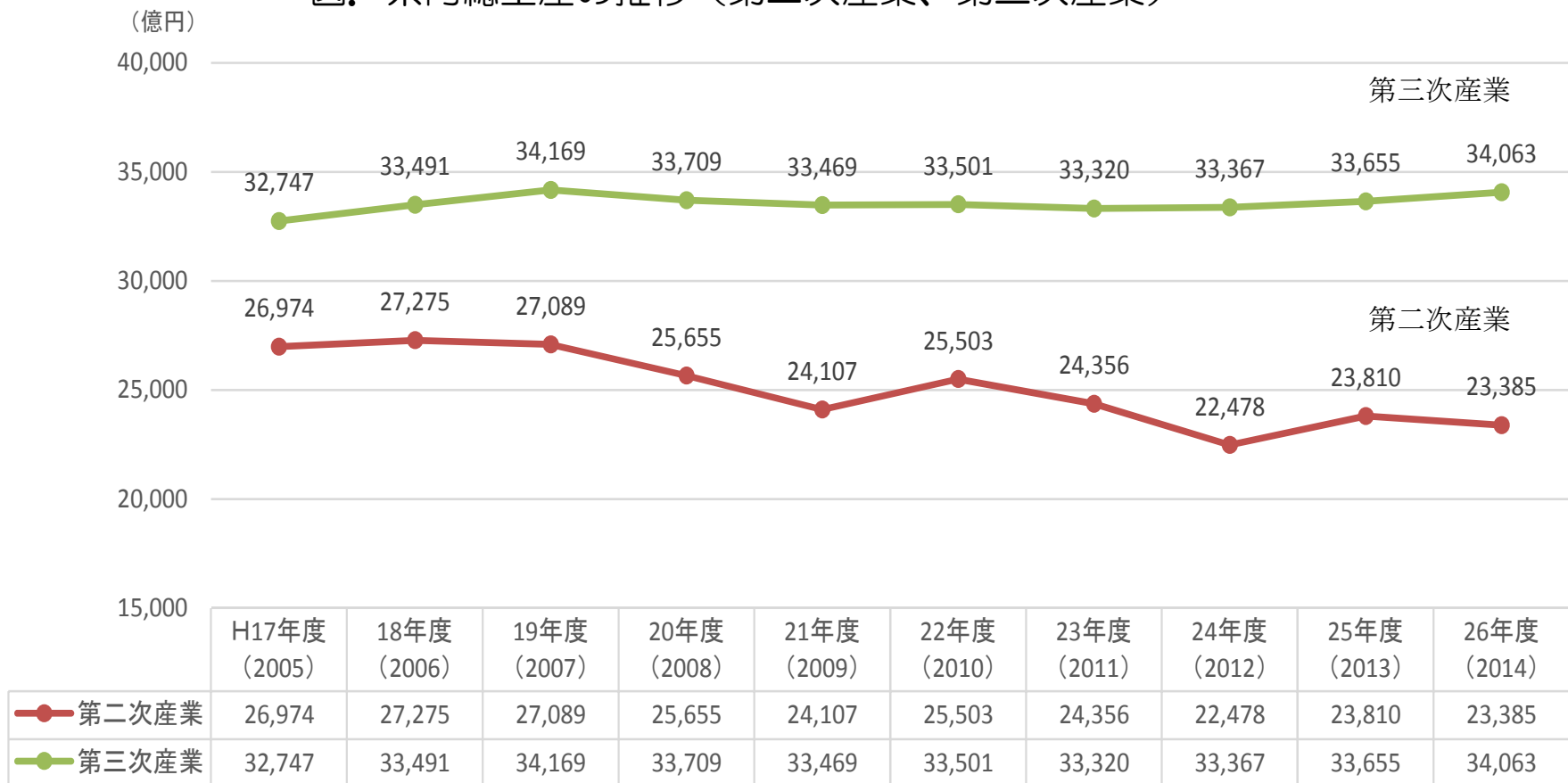


(資料:滋賀県「滋賀県における土地利用の現状と対策」平成29年3月)

④県内産業の動向

・県民総生産(名目)の産業別推移をみると、第三次産業は増加傾向にあるのに対し、第二次産業は減少傾向がみられる。

図. 県内総生産の推移（第二次産業、第三次産業）



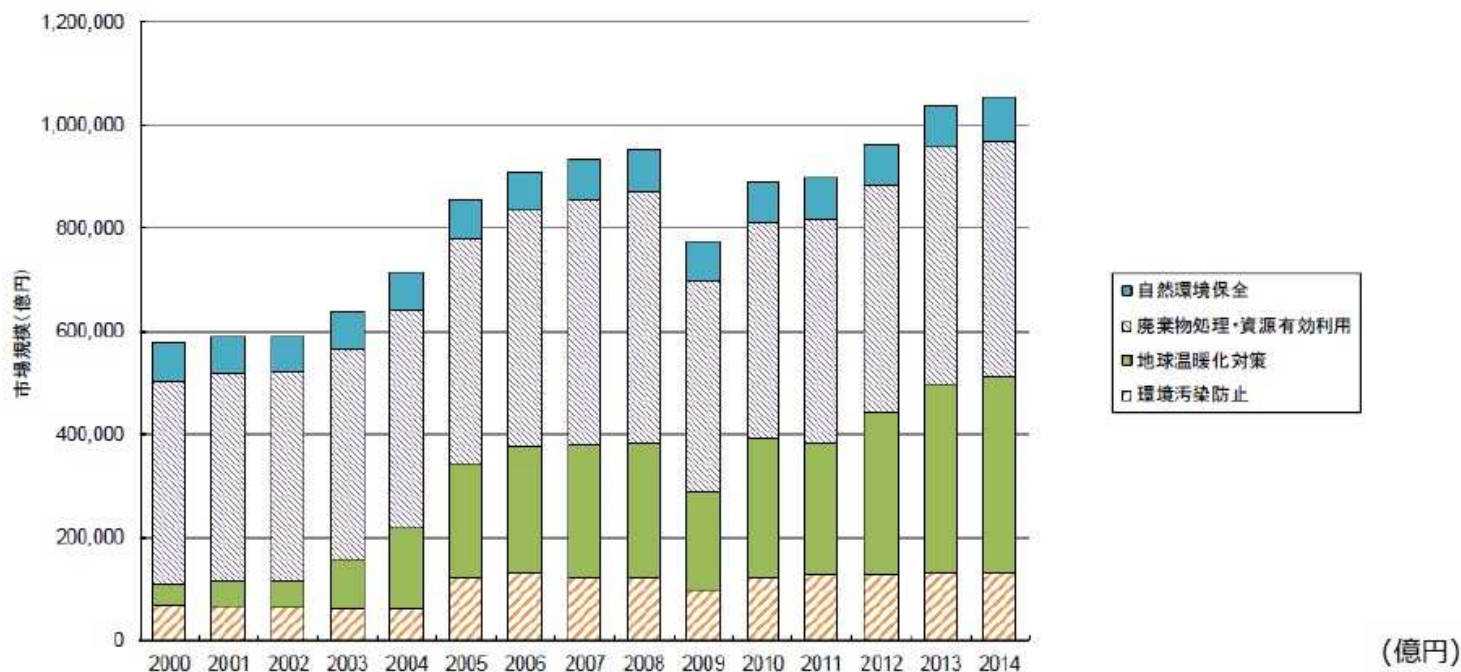
(資料) 滋賀県: 県民経済計算(滋賀県統計課)

⑤国内の環境産業の市場規模

- 日本の環境産業の市場規模は、世界的な金融危機の影響による景気減速が発生した2009年を除き、増加傾向が続いている。
- 投資家の間では、企業における環境への取組などを考慮するESG投資※への関心が高まりを見せている。

※ESG投資：環境(Environment)・社会(Social)・企業統治(Governance)といった要素を考慮する投資)

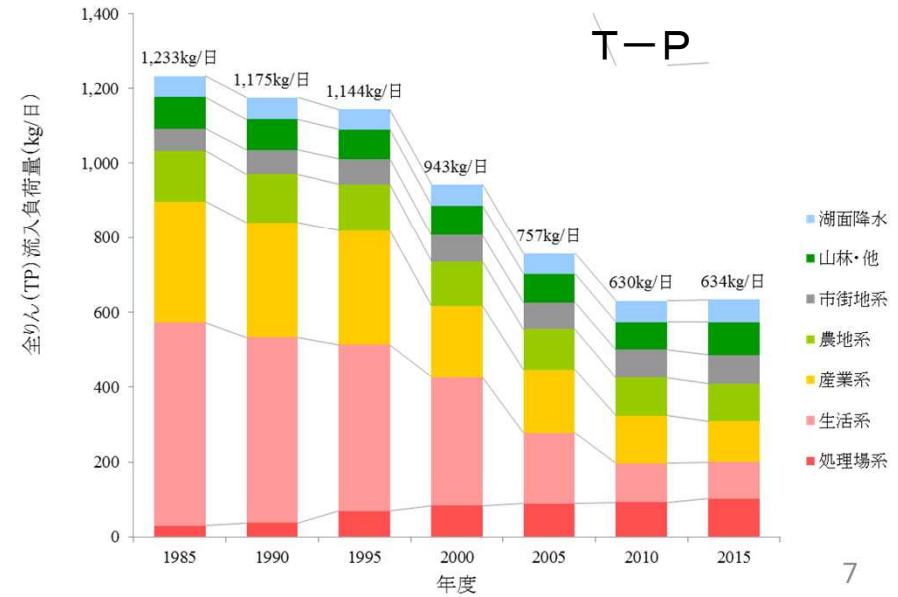
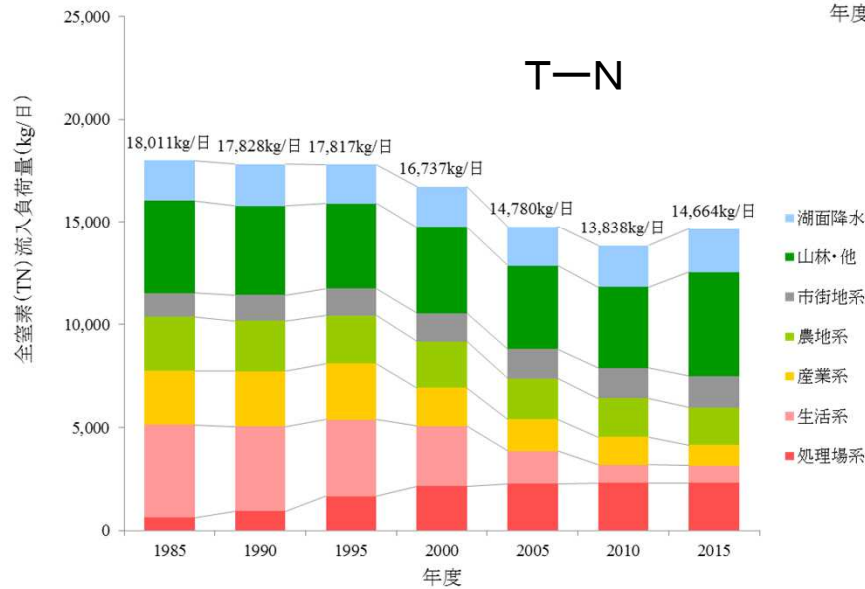
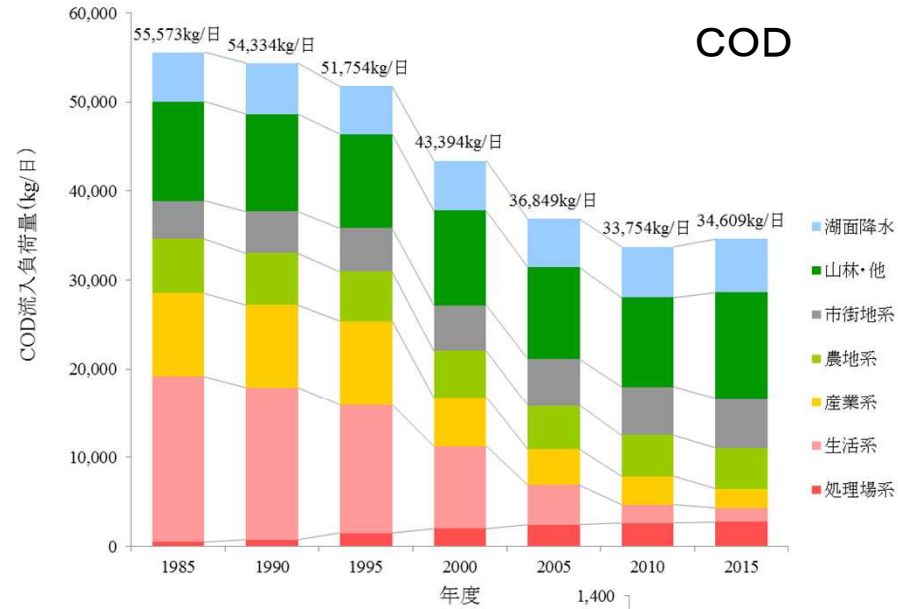
図. 環境産業の市場規模



大分類	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
環境汚染防止	72,759	68,327	64,863	62,721	61,719	124,363	134,326	122,128	122,862	99,267	124,649	130,334	132,381	135,804	136,053
地球温暖化対策	38,482	47,702	52,778	97,475	158,404	220,737	246,653	259,650	262,910	193,029	268,212	256,589	314,353	363,075	377,116
廃棄物処理・資源有効利用	394,598	402,963	404,740	408,941	421,322	438,170	455,519	474,749	488,072	406,431	420,332	433,502	438,665	459,452	458,334
自然環境保全	73,576	71,094	69,585	71,756	73,848	74,858	75,544	79,359	79,381	79,030	78,563	78,576	79,828	82,422	82,630
合計	579,416	590,086	591,966	640,893	715,292	858,127	912,043	935,885	953,225	777,757	891,757	899,001	965,226	1,040,753	1,054,133

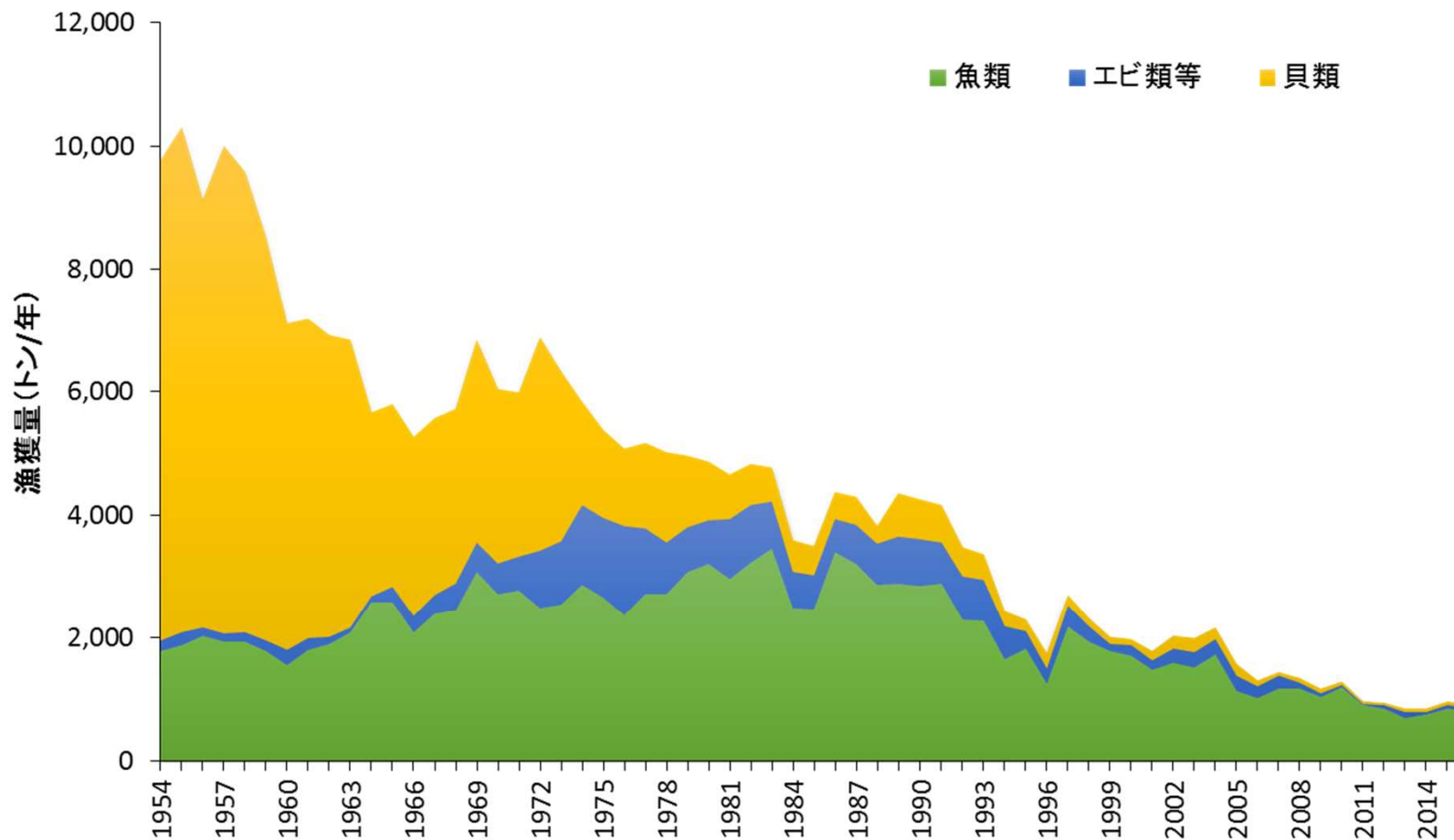
⑥琵琶湖への流入負荷量の推移

・排水規制や下水道事業の進捗等により、琵琶湖への流入負荷量は減少している。



⑥漁獲量の推移

・漁獲量は減少傾向が続いており、特に貝類の減少が著しい。

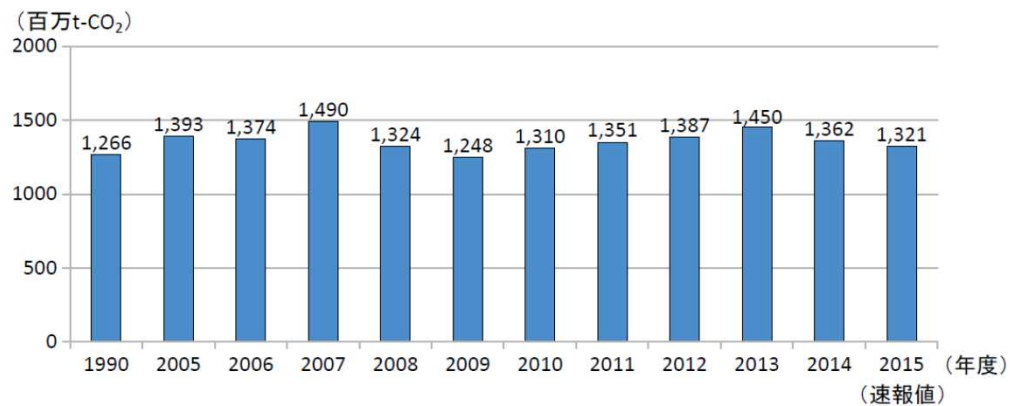


出典：滋賀農林水産統計年報（近畿農政局滋賀農政事務所）

⑦温室効果ガスの推移

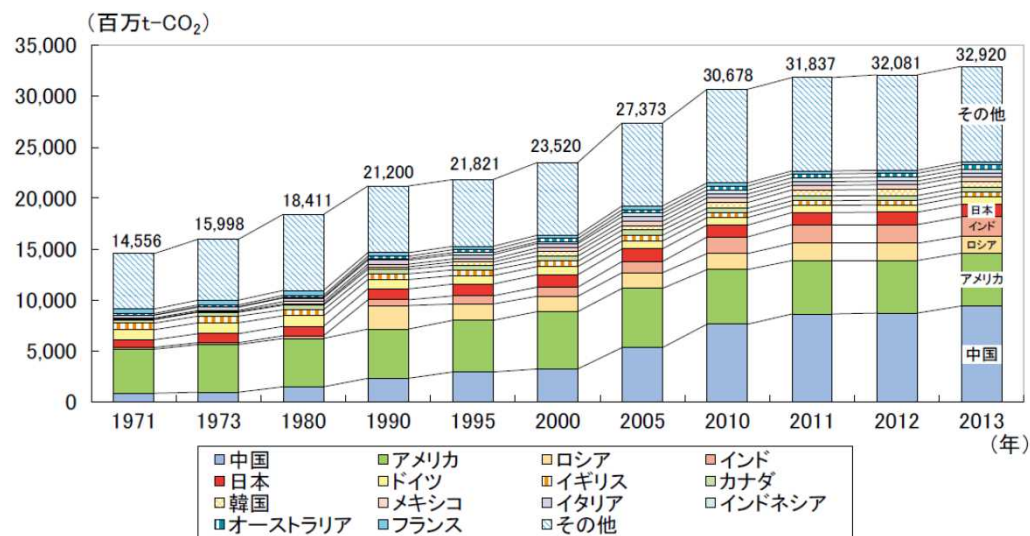
・日本の温室効果ガス 排出量は近年減少傾向。世界的には増加傾向が見られている

日本の温室効果ガス排出量の推移



出典：「2015年度（平成27年度）の温室効果ガス排出量（速報値）について」（環境省公表資料）（2016年12月）

世界の二酸化炭素排出量の推移



出典：EDMC「エネルギー・経済統計要覧2011、2015、2016」